

令和7年度

文化部活動改革（部活動の地域移行に向けた実証事業等）

地域文化クラブ活動への移行に向けた実証事業

神奈川県川崎市

自治体名：神奈川県川崎市

担当課名：教育委員会事務局学校教育部健康教育課

電話番号：044-200-3313

1.自治体の基本情報



基本情報

面積	144.35 km ²
人口	1,559,207 人
公立中学校数	52 校
公立中学校生徒数	30,032 人
部活動数 (文化部活動のみ)	235 部活
市区町村の協議 会・検討会議等 の設置状況	設置済
市区町村の推進計 画・ガイドライン等の 策定状況	策定済

地域展開・連携における市区町村の現状・課題

本市においては、52校の公立中学校があり、生徒数は、30,032人で757部活が活動している。その中で、文化部活動は、235部活が存在している。今後数年間の生徒数については、推計では、ほぼ横ばいの傾向であり、少子化による部活動への影響は少ないと思われる。

しかし、生徒の部活動に対するニーズの二極化（楽しみたい派とうまくなり派）に加えて、教員の部活動に係る業務に対する負担感が増していることから、本市の部活動運営には、生徒の声に寄り添った対応と教職員の働き方・仕事の進め方改革の推進の両立が求められている。これらの課題解決策の一つとして、地域等にいる外部人材を活用しながら文化活動の環境を整備し、将来的な地域展開・連携につなげていく必要がある。

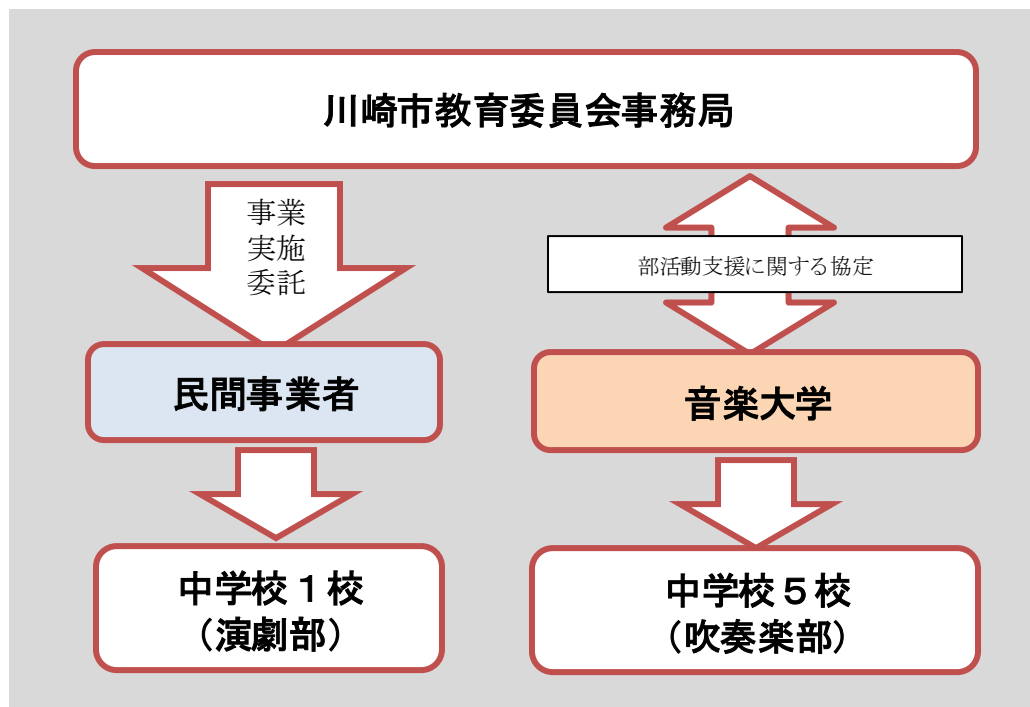
以上の課題解決に取り組むため、これまで本市では、生徒・保護者・教員へのアンケートによる部活動の実態把握、有識者等による懇談会における意見聴取を行い、今年度は、当事者である中学生に現在や将来の部活動について考え、どんな部活動をしていきたいかなどの話し合いを行った。

これらをもとに、平成30年に策定した「川崎市立学校の部活動に係る方針」を改定し、話し合われた意見については、本市における今後の部活動の在り方の検討や、「かわさき部活動ガイドライン」を作成する際の資料とする。

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

・健康教育課…部活動改革の主管。学校との調整・連携など

◎首長部局

・市民文化振興室…本事業実施に関する助言等

年間の事業スケジュール

令和7年6月	市内の音楽大学（昭和音楽大学、洗足学園音楽大学）の在学生及び卒業生による市立中学校吹奏楽部（5校）での指導開始
令和7年7月	委託先の民間事業者（合同会社 Fountain）から派遣された指導者による市立中学校演劇部（1校）での指導開始
令和7年8月	部活動生徒代表者会議の実施
令和7年10月	川崎市立中学校の部活動に係る懇談会の実施
令和8年2月	川崎市立中学校の部活動に係る懇談会の実施
令和8年3月	かわさき部活動ガイドライン策定

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		6 クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）	6 クラブ（6 部活動）	
	B：部活動にはない種目など、新規の地域クラブ活動数	0 クラブ	
全体の指導者数	15 人	全体の運営スタッフ数	4 人

②各地域クラブ活動に関すること

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)
日吉中学校	教育委員会	吹奏楽	31回	主に平日の夕方または土曜の午前中	34人	令和7年6月～令和8年3月	3人	2人（健康教育課）
橘中学校	教育委員会	吹奏楽	27回	主に平日の夕方または土曜の午前中	57人	令和7年6月～令和8年3月	3人	2人（健康教育課）
高津中学校	教育委員会	吹奏楽	63回	主に平日の夕方または土曜の午前中	48人	令和7年6月～令和8年3月	2人	2人（健康教育課）
西高津中学校	教育委員会	吹奏楽	52回	主に平日の夕方または土曜の午前中	48人	令和7年6月～令和8年3月	2人	2人（健康教育課）
稲田中学校	教育委員会	吹奏楽	37回	主に平日の夕方または土曜の午前中	58人	令和7年6月～令和8年3月	3人	2人（健康教育課）
西中原中学校	民間事業者	演劇	40回	主に平日の夕方または土曜の午前中	8人	令和7年7月～令和8年3月	2人	2人（民間事業者）

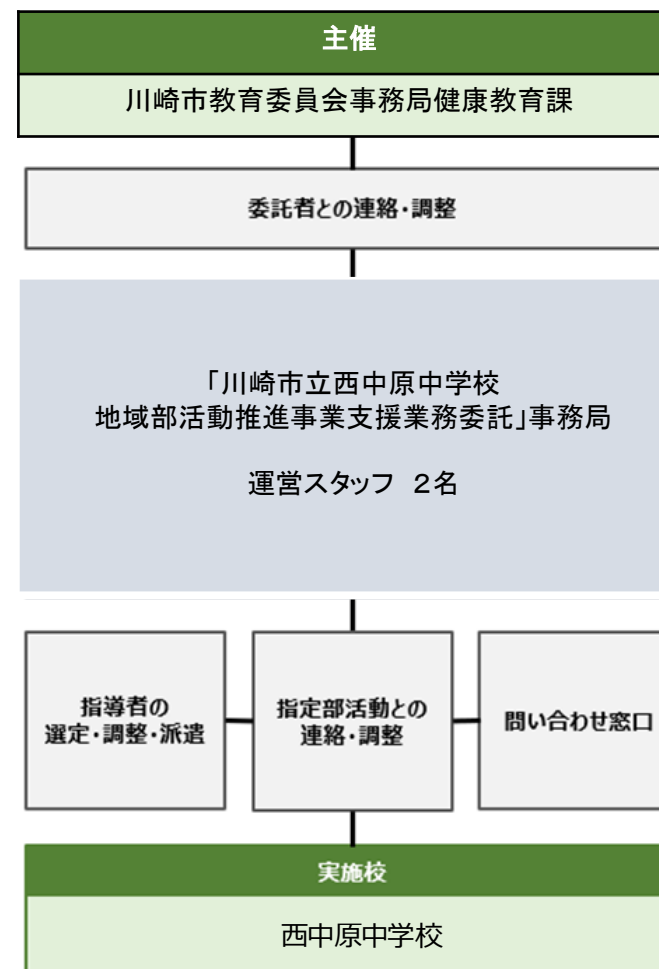
2.実証内容と成果

主な取組例

●西中原中学校演劇クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	演劇
運営団体名	合同会社 Fountain
期間と日数	約4日/月
指導者の主な属性	舞台俳優
活動場所	西中原中学校
主な移動手段	徒歩
1人あたりの参加会費等（年額）	0円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- ・関係団体等との懇談会を実施した。

今後の取組における課題

- ・多様な関係者の意見を踏まえたガイドラインの策定はしたものの、実際の運用において、関係者間の継続的な連携体制や役割分担の明確化を図りながら、持続可能な運営体制を具体化していく必要がある。

取組の成果

- ・「川崎市立中学校の部活動に係る懇談会」を開催し、そのメンバーである本市吹奏楽連盟などと情報交換を行った。

課題への対応方針

- ・懇談会等を継続的に実施し、関係団体との情報共有と意見交換を深めるとともに、ガイドラインを踏まえた実行体制の整備を進め、持続可能な部活動の在り方を具体化する。

●イ：指導者の質の保障・量の確保／ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- ・部活動支援協定に基づく市内音楽大学からの指導者人材の確保
- ・民間事業者の導入による指導者の導入

今後の取組における課題

- ・指導者が自身の活動等で多忙なため、学校の要望どおりの指導が常に実施できない場合がある。また、民間事業者の契約継続が保証されない点や、継続的に指導できる人材・団体の確保が課題である。

取組の成果

- ・吹奏楽部については、昨年度に続き、昭和音楽大学及び洗足学園音楽大学から合計13名の在学生及び卒業生を指導者として派遣してもらった。
- ・演劇部についても、昨年度と同じ学校での実施のため、事前に学校側にヒアリングし、指導方法を入念に検討した上で、実際の指導に入った結果、生徒と良好な関係を築き、指導者・生徒双方にとって有意義な部活動となった。

課題への対応方針

- ・大学等の派遣元と連携し指導者数の拡充を図るとともに、契約継続に関する対応方法を検討する。また、各種団体とのヒアリングを通じて連携を強化し、地域展開を見据えた継続的な人材確保体制を構築する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●オ：内容の充実

取組事項

- ・生徒へのアンケートを実施した。

今後の取組における課題

- ・他校との合同活動に対しては心理的な抵抗感を持つ生徒も一定数おり、既存の部活動の良さを踏まえた地域クラブの在り方の検討が必要である。

取組の成果

- ・外部指導者による専門的な指導については、生徒から継続を望む声が多く、一定の効果が確認された。

課題への対応方針

- ・生徒の意識やニーズを踏まえた活動形態を検討し、従来の部活動の利点を活かしつつ、無理のない形で地域展開・合同活動を進める。

●カ：参加費用負担の支援等

取組事項

- ・保護者・学校の費用負担について調査し、実態を把握した上で、部活動を地域展開・連携した際の受益者負担の在り方を検討する。

今後の取組における課題

- ・受益者負担を導入する場合、生徒・保護者が納得できる指導内容や環境の確保と、保護者の理解形成が必要である。

取組の成果

- ・試行段階では市費負担により事業を実施し、費用負担に関する基本的な課題を把握できた。

課題への対応方針

- ・指導の質や環境整備を充実させた上で、保護者への丁寧な説明を行い、段階的に受益者負担の導入を検討する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●キ：学校施設の活用等

取組事項

・休日の文化部活動を行う際の学校管理下外の活動場所の検討及び学校開放の考え方を参考にしながら、校舎利用のルールの検討した。

今後の取組における課題

・校舎利用可能な部屋が限定されていることや、休日活動における利用ルールが未整備である点が課題である。

●ク：その他の取組（演劇における合同活動）

取組事項

・地域展開・連携を見据えた、他校との合同活動の試験的な場として今後の検討材料とするため、演劇の拠点校である学校において、外部講師による他校合同活動を実施した。

今後の取組における課題

・他校との合同活動については、生徒にとって新たな刺激や交流の機会となる一方で、参加への心理的負担や人間関係への不安が生じる可能性がある。また、継続的な実施に向けては、活動運営の体制整備や受入校・指導者の負担、移動手段・時間調整などの運営面の課題も整理する必要がある。

取組の成果

・施設確保の観点から、学校を拠点とした活動が現実的であることが明確になった。

課題への対応方針

・学校開放の考え方を踏まえ、休日利用や外部利用を含めた校舎利用ルールの見直しと整備を進める。

取組の成果

・事後アンケートを実施した結果、「普段関わることのない人と関わって楽しかった」「たくさん刺激をもらった」「また参加したい」等の声が挙がった。
・今回の活動によって、生徒の心境の変化を知ることができた。

課題への対応方針

・試験的な合同活動の成果や生徒アンケート結果を踏まえ、無理のない参加形態や段階的な実施方法を検討する。また、生徒が安心して参加できる環境づくりに配慮するとともに、関係校・指導者間での事前調整を強化し、運営方法を標準化することで、持続可能な活動モデルの構築を図る。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●ク：その他の取組（部活動生徒代表者会議の実施）

取組事項

・当事者である子どもたちが、全市から出た意見を踏まえ意見交換をすることによって、大人だけで決めない、川崎市の部活動の在り方を考えるため、川崎市立中学校52校の生徒代表者による対話形式の会議を実施した。

今後の取組における課題

・生徒による意見交換を通じて、多様な意見を踏まえたガイドラインを策定できた一方で、意見交換会で得られた知見を、今後の具体的な施策運用や取組の改善にどのように活かしていくかが課題である。また、限られた機会の中で得られた意見であるため、実際の運用段階において現場との乖離が生じないよう留意する必要がある。

取組の成果

・多種多様な子どもたちによる意見交換会の実施により、川崎市の部活動の姿を考える機会となった。
・本会議を始めとし、多様な主体における意見聴取を行い、かわさき部活動ガイドラインを策定した。

課題への対応方針

・本会議で得られた知見やガイドラインの内容を踏まえ、各取組の実施状況を検証しながら、必要に応じて運用の見直しや改善を図る。また、学校現場や関係者からの実態把握を通じて、ガイドラインの趣旨が適切に反映されているか確認し、実効性の確保に努める。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

【吹奏楽部】

- ・部活動支援に関する協定を締結した市内音楽大学（昭和音楽大学、洗足学園音楽大学）から派遣された指導者による吹奏楽部指導を実施。
- ・昨年度よりも指導者の派遣時期を早く開始することができたことに加えて、指導者も昨年度とほぼ同様の方が従事してくれたことにより、顧問及び生徒の双方から、他の業務に従事できる時間ができた、生徒の技術の向上が見られたなど概ね好意的な意見であった。
- ・指導日の日程調整について、学校と指導者側との都合が合わせるのが難しいとの意見が学校からあった。

【演劇部】

- ・民間事業者を導入し、演劇及び学生指導の経験がある人材を指導者として派遣し、部活動指導を実施した。
- ・顧問からは、指導を指導者に任せられたことで、部活動中に別の仕事をすることができたとの感想があり、生徒からも専門的な指導が受けられて満足であり、来年度も指導を望む声があった。また、他校との合同練習を今年度実施できたことについても、指導者や生徒たちにとって良い刺激となった。

●成果の評価

- ・吹奏楽部については、顧問だけですべての楽器を同じように教えることは難しかったため、専門外の楽器の指導を外部人材でカバーできたことは大変有益であり、生徒も指導者側も自身の成長につながったとの感想をいただいたので今後も継続していきたい。
- ・演劇部については、指導者が演者のみでなく演出等の様々な経験が豊富であることに加え、学校で演劇を指導した経験もあり、演劇指導に長けていたことに加え、生徒たちの前向きな姿勢もあり、生徒と指導者の間で良い信頼関係が生まれ、非常に有意義な活動であった。

●今後に向けて

- ・近隣の学校との合同練習の実施する。
- ・指導者の増員（学校の都合に応じて指導者を派遣できる体制づくり）
- ・学校管理下外の活動場所の検討及び学校開放の考え方を参考にしながら、校舎利用のルールの検討をする。
- ・受益者負担を求める際、保護者の理解を得ながら、段階を踏んで実施するための、生徒と保護者が対価として満足できる技術指導、内容、指導環境等の整備をする。

2.実証内容と成果②

アンケート結果・参加者/関係者の声

●生徒の声

【吹奏楽部】

- ・基礎をしっかり教えてもらうことができた。
- ・練習メニューが充実していた。
- ・個別に指導を受ける時間が増えてよかった。
- ・来年度も同じ指導者から指導を受けたい。
- ・（今回指導した楽器とは異なる楽器を担当する生徒からの意見）
指導を受けた人たちは、私の知らない知識のことを話していたので、私も指導を受けたいと思った。

【演劇部】

- ・基礎をしっかり教えてもらうことができた。
- ・レベルの高い指導を受けることができた。
- ・練習メニューが充実していた。
- ・来年度も同じ指導者の指導を受けたい。

●顧問の声

【吹奏楽部】

- ・生徒の技術向上に役立った。また、専門ではない楽器の指導をフォローしてくれて助かった。
- ・上手な人と一緒に演奏できることが、生徒たちにとって良い刺激になった。
- ・他の業務に取り組む時間ができた。
- ・人手不足なので助かったが、指導日のスケジュール調整が、指導者の都合もあり難しかった。

【演劇部】

- ・発表会に向けた練習や他校とのワークショップでの指導などを通じて、生徒たちが楽しく部活に参加でき、演技力も向上した。
- ・指導者がいる間、他の業務に取り組む時間ができた。また、専門ではない分野の指導をフォローしてくれて助かった。
- ・指摘された内容を今後の課題として、生徒たちと共有することができた。

●指導者の声

【吹奏楽部】

- ・生徒たちの技術向上を実感できて、指導して良かった。また、生徒に指導する中で自分の理解を言語化することで深めることができ、自身の成長にも役立った。
- ・様々なアプローチを考える良い機会になった
- ・限られた時間の中で継続的な指導を行う難しさや、顧問の先生との情報共有の重要性も強く感じた。単発的な技術指導だけでなく、「どのような方向性で部を育てていくのか」という共通理解があることで、より効果的な指導が可能になると実感した。

【演劇部】

- ・指導者としての経験を積めた。生徒との関わり方も学ばせてもらい、自分の今後に繋がれそうだと感じた。
- ・指導者は年度で変わるのではなく数年を通じて関わらせてほしい。特に演劇部は心の繋がりを直接的に使う部活なので、生徒・指導者のお互いが関係性を長く築いていくことで得られることがあることに目を向けて地域展開を進めてほしい。

2.実証内容と成果③

参考資料



【演劇部】合同活動



【吹奏楽部】指導の様子



【部活動生徒代表者会議】



【部活動生徒代表者会議】

2.実証内容と成果④

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年

検討開始

指導者の選定、
拠点校の選定

学校現場との
調整、
懇談会設置

地域クラブ活動
の開始

令和6年

地域クラブ活動
の継続実施

令和7年

「かわさき部活動
ガイドライン」策定

●ステークホルダー

学校、教育委員会事務局、市長事務部局など

●経過

令和5年度に有識者による懇談会を設置し、休日の部活動の地域移行及び今後の部活動の方向性について検討を開始した。また、同年に市内音楽大学2校と市立中学校の文化部活動支援に関する協定を締結した。

●実施内容

令和5年度は、市立中学校5校の吹奏楽部において、休日の部活動に市内音楽大学の在学生及び卒業生を指導者として導入し、試験的な取組を開始した。また、市立中学校1校の演劇部でも、民間事業者の支援を受けて、取組を開始した。

●実施にあたって生じた課題

クラブ活動において、指導者と学校側との間で指導日の調整に係る負担が大きいことが指摘された。

また、吹奏楽部については、指導者の専門や経験によって指導可能な範囲が異なるため、より多くのパート楽器を指導したり、合奏など全体的な指導を指導するには、指導者の増員などを検討する必要がある。

●今後の展開

令和7年度末に策定の本市全体の地域展開・連携の方向性を踏まえた、「かわさき部活動ガイドライン」をベースに令和8年度も引き続き同じ学校での取組を継続するとともに、課題解決に向けた取組を有識者や関係者等と検討し、令和11年に向けて着実な事業の推進を図っていく。

3.今後の方向性

地域展開・連携の推進に向けたロードマップ

